

## 欧米の金融不安はひとまず危機を回避し収束へ

### ◆2023年3月に起きた欧米の金融不安に金融当局が素早く対応

2023年3月、米国のシルバークラウド・キャピタルの自主清算発表や、シリコンバレーバンク（SVB）破綻などを受けて、欧米に金融不安が広がり、世界の金融市場はリスク回避の流れが強まった。これに対して日米欧の金融当局は流動性の供給と、状況に応じた預金保護による不安を払拭するなど素早く対応した。

たとえば、米国の財務省、連邦準備制度理事会（FRB）、連邦預金保険公社（FDIC）がSVBなどの預金の全額保護を発表した。さらにFRBは金融機関の監督・規制方針を見直して公表すると発表した。イエレン財務長官も中小規模の金融機関が経営難に陥った場合、預金者を保護する意向を示した。欧州でも金融不安が飛び火するのを避けるために、業績不振が続くクレディ・スイスグループに対して、スイス国立銀行（中央銀行）とスイス金融市場監督機構（FINMA）が、必要があれば資金供給で支援するとの声明を連名で出した。その後、スイスの金融機関最大手UBSによるクレディ・スイスグループの買収が発表された。この発表直後に、世界に金融不安が広がるのを防ぐために、FRBなど日米欧の中央銀行6行（6中銀）が協調して米ドル供給を強化することが発表された。

### 23年の欧米の金融不安を巡る主な動き

年月日	主な動き
3月8日	【米国】シルバークラウド・キャピタルが <b>自主清算を発表</b> 。仮想通貨交換業大手FTXトレーディングの経営破綻後に預金が急減。資金流出に対応する資産売却で損失が膨らみ、自己資本比率が規制上の水準を満たさない可能性が出ていた。
3月10日	【米国】シリコンバレーバンク（SVB）が <b>経営破綻</b> 。FRBの利上げで資金繰りが悪化した顧客の預金引出しに預金を運用していた債券の売却で対応するが、金利上昇による価格下落による売却損が発生。この損失補填のための増資計画発表がSVBへの信用不安を高め、預金引出しが加速して流動性不足に陥り経営が破綻。
3月12日	【米国】シグネチャーバンクが <b>事業停止</b> に。米国の金融当局はSVB、シグネチャーバンクの預金全額保護を発表。FRBは新たな流動性対策を発表。
3月13日	【米国】FRBは <b>金融機関の監督・規制方針を見直し</b> 、5月1日までに公表へ。
3月15日	【スイス】スイス国立銀行とスイス金融市場監督機構が経営不振が続くクレディ・スイスグループに <b>必要があれば資金供給で支援すると声明</b> を発表。
3月16日	【米国】米国大手11行が株価下落や預金流出に見舞われているファースト・リパブリックバンクの破綻を避けるために <b>300億ドルを預金</b> 。
3月19日	【スイス】UBSがクレディ・スイスグループの <b>買収に同意</b> 。 【日米欧】日米欧の中央銀行6行が協調して <b>米ドル供給を強化</b> 。
3月21日	【米国】イエレン財務長官が、 <b>中小規模の金融機関が経営難に陥った場合、預金者を保護</b> する意向を示す。

出所：各種報道資料を基に旭リサーチセンター作成。

◆金融危機の発生はひとまず回避したものの、市場は先行きを懸念

金融当局による迅速な対応により、金融不安で急落した米国の金融機関の株価が回復してきたことから、欧米の金融不安で信用収縮が起こり、世界的な金融危機が発生することはひとまず回避したとの見方が多くなっている。ただ、23年1月3日に101.46あった米国の大手行や主な地銀で構成するKBWナスダック銀行株指数は3月23日に78.06まで低下した後、多少持ち直したものの80前後とまだ低い。これは、市場では金融不安が完全に払しょくされたわけではなく、先行きを懸念する者が多いことを示している。

◆楽観するにはまだ早く、先行きの見通しは慎重に

欧米の金融不安は今後3つのシナリオが考えられる。1つ目は金融当局が行ったこれまでの施策が有効に働き、短期間で収束するケースである。2つ目は金融当局の施策には限界があり、今後新たな銀行破綻が数件起こり、金融当局は流動性供給の対象拡大や供給手法の多様化、一時的な金融緩和に迫られ、事態の收拾に半年から1年かかるケースである。3つ目は銀行破綻が一段と広がり、破綻の連鎖が08年9月のリーマン・ショック並みの世界的な金融危機を起こし、事態の収束に少なくとも数年を要するケースである。

SVBの破綻はリスク管理の問題などSVB固有の事情が主因である。シグネチャーバンクもクレディ・スイスグループも特殊な銀行であり、3つ目のケースが起こる可能性は小さい。金融当局の素早い対応で不安は数週間で払しょくすると楽観的な見通しを語る専門家は少なくない。しかし、歴史は韻を踏む。リーマン・ショック発生の1年前に、信用力の低い借り手向け住宅ローンの証券化商品の価格が返済延滞の増加で暴落して金融機関が巨額の損失を被るサブプライム住宅ローン問題が起きていた。この問題について、影響は軽微と語る専門家は少なかった。22年以降、FRBの金融引き締めにより米国債などの債券価格の下落が続いている。FRBの金融機関の監督・規制方針の見直し後に、リスク管理の問題から保有する債券に多額の評価損が発生していることが監査や決算発表などによって発覚する金融機関が出てきて信用不安が起こり、世界的な金融危機に発展する可能性はゼロではない。金融不安が解消されたと楽観するにはまだ早く、先行きは慎重に見ておいたほうがよいだろう。

【藤井和則】